



Title	現代の眼
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2018, 13, p. 30-35
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71856
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

現代の眼

不明～24巻5号（1983.5），東京：現代評論社

17巻1号（1976.1）～23巻12号（1982.12）

大阪大学附属総合図書館（調査：岡野翔太，2018年6月）

17巻1号～2号 なし

17巻3号（1976年3月）

原理運動と日台韓の勝共戦略（猪野健治）

台湾の政治犯と弾圧の実態：米中国交正常化の不安の中で強まる政治

弾圧の事例を暴き告発する（宋重陽）

17巻4号（1976年4月）

密航者：スパイ容疑の数奇な軌跡（藤崎康夫）

17巻5号（1976年5月）

文化大革命は終わらず（辻康吾）

17巻6号（1976年6月）

天安門事件の衝撃と中国の戦略

17巻7号（1976年7月）

現代中国の危機とは何か：錯綜する報道の内で反毛極左派の陰謀とも

ささやかれた天安門事件とは（藤井満洲男，辻康吾）

世界史のなかの中国像：＜辺境なき辺境革命＞の現在的パラドクスを

毛沢東中国の試行に見る（湯浅赳男）

毛沢東の権力観と肅清の弁証法（三浦つとむ）

軍事路線闘争の私的展開（中山敏雄）

反右派闘争と整風運動（太田勝洪）

文化大革命の路線とその思想（加々美光行）

批林批孔と文明の作法（矢吹晋）

走資派批判運動の軌跡（浜勝彦）
周恩来：中国の政治的傑作（守屋洋）
逝くものは斯くの如く（津久井龍雄）
戦争責任を議論する（日高六郎）
今なお発展途上国（浅野達三）
極大にして極小な（内田弘）
兄・秀実の複眼思考（尾崎秀樹）
「中国への思い入れ」（小沢遼子）
中ソ対立の下部構造（山内一男、佐久間邦夫）
中国の外交政策批判（W・バーチェット）
中国は世界をどう観ているか（W・ヒントン）

17巻8号～10号 なし

17巻11号（1976年11月）

毛沢東思想集団と毛沢東の死（新島淳良）
知られざる毛沢東の家族（守屋洋）
毛沢東の遺言：継続革命の行方（辻康吾、太田勝洪、矢吹晋、加々美光行）
誤解された孤独な修道僧（藤井満洲男）
志を継ぐものの責任（戸村一作）
「偉大」な毛と「滑稽」な毛（三浦つとむ）
上海精武会と毛沢東体育論（平岡正明）
革命家の死と墓（和田春樹）
毛沢東思想のゆくえ（浅野雄三）
ポスト毛と蒋經国台湾の選択（王健台）
孤立無援の在日台湾人（連根藤）

17巻12号（1976年12月） なし

18巻1号（1977年1月）

北京で見た「十月政変」（寺尾五郎）
北京報道と“香港情報”的落差（上村留）

- 18巻2号（1977年2月）
南京大虐殺は幻か（朝倉喬司）
- 18巻3号（1977年3月）なし
- 18巻4号（1977年4月）
- 中国マルクス主義とロシアナロードニキ（永野英身）
- 18巻5号～6号なし
- 18巻7号（1977年7月）
- 黙殺される在日台湾人（嵯峨薰）
- 18巻8号（1977年8月）
- 18巻9号（1977年9月）
- 日中化学交流の課題を巡って（岬暁夫）
- 台湾人「皇軍兵」の不条理な戦後（羽柴駿）
- 18巻10号（1977年10月）
- 中国共産党一一全大会の画期性
- 18巻11号～19巻1号なし
- 19巻2号（1978年2月）
- E・スノー：中国にかけた生と死（松岡洋子）
- 19巻3号～4号なし
- 19巻5号（1978年5月）
- 中国は＜転換＞したのか：全人代と「三つの世界」論を巡って（蟻山
芳郎，北沢正雄，辻康吾）
- 19巻6号（1978年6月）
- 成田一尖閣で一息ついた福田政権
- 19巻7号～8号なし
- 19巻9号（1978年9月）
- 中国対外戦略の亀裂：毛沢東路線と鄧小平，江青，華国鋒（中村公省）
- 19巻10号（1978年10月）
- 日中平和友好ブームと竹内好
- 19巻11号（1978年11月）

- 文化大革命の彼方（辻康吾）
- 19卷12号（1978年12月）
- 日中平和友好条約、鄧小平来日：内外情勢の激動にとまどう「右翼」
　　（猪野健治）
- 20卷1号（1979年1月）　　　　　なし
- 20卷2号（1979年2月）
- 「日米中軍事同盟」のリアリティ（藤井治夫）
- 20卷3号（1979年3月）
- 日中貿易に何が起きているか（清水正夫）
- 20卷4号（1979年4月）
- 中国のベトナム侵攻と米ソの思惑
　　中越ショックに揺れる政府与野党
　　日中軍団再浮上の政界裏面図（港一平）
- 20卷5号（1979年5月）
- 中越戦争とイラン革命：社会主義の「近代化」が提起した諸問題を今
　　目的状況から解明する（北川登）
　　貧しい中国、豊かな中国（檜山久雄）
- 20卷6号（1979年6月）
- 中越戦争と社会主義の難所（山川暁夫）
- 20卷7号～11号　　　　　　　なし
- 20卷12号（1979年12月）
- 日中経済協力の前提と展望（折口二郎）
- 21卷1号～6号　　　　　　　なし
- 21卷7号（1980年7月）
- 台湾の政治犯裁判と恐怖政治
- 21卷8号（1980年8月）　　　　　なし
- 21卷9号（1980年9月）
- 中国観光旅行始末記（檜山久雄）
- 21卷10号（1980年10月）　　　なし

- 21巻11号（1980年11月）
変動する中国像と知識人の位相
- 21巻12号～22巻1号 なし
- 22巻2号（1981年2月）
日本国は支配領有し日本人として戦争に強制出兵させた者をどのように扱おうとしているのか（林景明）
- 22巻3号～4号 なし
- 22巻5号（1981年5月）
中国を搖るがす「信念の危機」（矢吹晋）
中国における「体制内批判派」（吉田富夫）
中国の国家幻想と辺境反乱（加々美光行）
中国向何處去？（中国、どこゆく）（竹中勞）
毛沢東と鄧小平（新島淳良）
人民解放軍の理念と現実（中山敏雄）
文革の一〇年と経済の近代化（山内一男）
【隨筆的寸評】文化大革命に何を見たか（井上清、菅沼正久、太田勝洪など）
文革後の中国文学：王蒙の文学をめぐって（村田茂）
それからの「李一哲」（張世潮）
中国のトップ人事にみる指導体制（桐村千春）
- 22巻6号～9号 なし
- 22巻10号（1981年10月）
中国は何處へ行く：マルクス主義の再生をめぐる諸問題（S・アミーン）
- 22巻11号～12号 なし
- 23巻1号（1982年1月）
邪魔者は殺す台湾政府と陳博士の死（林景明）
- 23巻2号～10号 なし
- 23巻11号（1982年11月）
諸外国に見る歴史教科書と教育（村井吉敬、R・アビト、山口明子ほか）

中国共産党第一二回大会の選択

23巻12号（1982年12月）

中国情報の時空構造と中国研究（村田茂）